

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5      ・通信教育部カレンダー→p. 9～11
- ・演習・実習科目関連締切等
- 社福→p. 23～25      精保→p. 26～27

## 2023年7月以降の変更・留意点

### ●レポート受付締切日の変更

8月以降のレポート受付締切日について、『試験・スクーリング情報ブック2023』 p. 10～17より変更いたします（詳細は本冊子 p. 43参照）。

(例) 8月のレポート受付締切日

変更前：8 / 8(火)・8 / 24(木)→変更後：8 / 8(火)・8 / 28(月)

### ●(再掲)「精神医学と精神医療Ⅰ」スクーリング(仙台会場)の日程決定

8 / 26(土)・27(日)

(詳細および申込については、本冊子 p. 21を参照)

### ●(再掲) 2023年度からの変更・留意点

『試験・スクーリング情報ブック2023』 p. 18～21をご確認ください。

## 8 / 9(水)～16(水)の夏期事務室対応について

- ・電話対応休止日：8 / 9(水)・10(木)・14(月)・15(火)・16(水)
- ・メールへの返信、証明書や学割の発行：8 / 9(水)～16(水)にいただいたものは8 / 17(木)以降の対応となる場合があります。

(詳細は本冊子 p. 40をご参照ください。)

## 新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応について

5/8より新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことを受け、通信教育部での各種対応は下記のとおりといたします（感染状況によって変更となる可能性があります）。

### ◆スクーリング受講について

『試験・スクーリング情報ブック2023』p. 48の【新型コロナウイルス感染防止における受講上の留意事項】（2023年2月時点）は撤廃いたしますが、下記につきましては引き続きご協力をお願いいたします。

1. 発熱など体調不良がある場合は、受講をお控え願います。
2. 入室はスクーリング開始20分前を目安にお願いします。
3. マスク着用は各自のご判断にてお願いします。授業の内容によってはマスク着用にご協力いただく場合があります。
4. せっけんでの手洗いや手指消毒、3密の回避等、各自での感染対策は引き続きお願いいたします。

### ◆提出物について、引き続きのお願い

レポート、各種申込書は、郵送での提出をお願いいたします。

### ◆学食について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 月曜日を除きランチ、ティータイムの営業をしています。  
※学生証の提示で、日替わりランチ200円引きなど割引があります。
- 2) スクーリング開講日に、日替わり弁当の予約を受け付けています。  
※550円（税込）、味噌汁付き。前日15時までにWeb予約（p. 45参照）。  
※スクーリング欠席時は予約キャンセルをお願いいたします。

#### ◆対面での学習相談について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 「学習相談申込書」を希望日の1週間前までにご提出ください（日時を調整のうえご連絡いたします）。
  - ・ **メールで提出**：通信教育部ホームページよりダウンロードし、入力のうち添付ファイルにて送信（宛先 uc@tfu.ac.jp）。
  - ・ **郵送で提出**：本冊子巻末の用紙に記入のうえ、返信用封筒（定形封筒 84円切手貼付・返送先明記）を同封して発送（封筒に「学習相談申込書 在中」と朱書きしてください）。
- 2) ご予約いただけるのは平日（水曜日を除く）で、下記①～⑤の時間帯に1日1回、30分以内となります。
  - ①10：00～10：30、②11：00～11：30、③14：00～14：30、④15：00～15：30、⑤16：00～16：30
- 3) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 4) 体調不良の際は、キャンセルのうえ改めてお申し込みください。
- 5) 学習相談は講義に準ずるため、録画・録音はご遠慮いただきます。

#### ◆自習室について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 使用可能日：年末年始など事務室休業日を除く。
- 2) 使用時間：9～17時
- 3) 使用希望の方は、通信教育部事務室（仙台駅東口キャンパス3階）にお越しください。
- 4) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 5) 発熱ほか体調不良の方は、入構をご遠慮ください。
- 6) 室内での食事はご遠慮ください。
- 7) 室内の書籍等は閲覧可能ですが、貸し出しはしていません。

# 説明のコツ

## —抽象度を意識することのススメ—

教員 MESSAGE

講師 二渡 努

私が大学生の時、友人が医学一般の期末試験で不合格となりました。理由を尋ねたところ、「虚血性心疾患について説明せよ」という問題に対して「虚血性による心疾患」と解答したそうです。本人は「間違っていない」と言っていました。不合格になるのも当然だ……と私は思いました。

さて、話は変わりますが、あなたの出身はどちらですか？ おそらく皆さんは「〇〇県出身です」と、都道府県の回答を頭に思い浮かべたのではないのでしょうか。しかし、状況が異なると回答内容が変わります。例えば海外旅行に行って初対面の方に「Where are you from?」と質問されたとき、都道府県のみ回答することはないでしょう。「I'm from Japan」又は「I'm from (都道府県) in Japan」と回答するのではないのでしょうか。つまり、状況や相手の理解度に合わせて回答の抽象度は変化します。このとき、不適切な抽象度で回答してしまうと会話のズレが生じてしまいます。

私は皆さんのレポートを採点させていただき際、筆者の考えを読み取ることが難しいことがあります。その理由の一つとして、記述内容の抽象度が高すぎるのが考えられます。例えば、「ソーシャルワーカーとしてどのように対応するか具体的に述べなさい」という課題に対して、「受容・共感・傾聴する」という解答は間違いではありませんが、普遍的な内容であるため、筆者の自分なりの視点や考えを読み手に伝えることが難しくなってしまいます。

S.1. ハヤカワは『思考と行動における言語』において、「抽象のハシゴ」を用い、説明の際、抽象のハシゴをより低いレベルの抽象に下れば、われ

われは言語の迷路に迷い込まなくてすむ、と述べています。冒頭の不合格となった友人の例は、説明レベルを変えていないため、説明になっておらず、出題者とのコミュニケーションにズレが生じてしまいました。抽象度を上げた場合は、「虚血性心疾患とは病気である」と解答できますが、その内容は自明です。「あなたの出身はどちらですか？」という質問に、「私は地球出身です」と回答することもできますが、地球外生命体と遭遇する機会でもなければ、その回答に意味はありません（地球外生命体に日本語が通じるかどうかは別問題ですが……）。

このように、説明の際は抽象度を下げることが原則ですが、突然具体的な説明をすると、聞き手がその内容をイメージすることが難しくなります。出身地の例でいえば、「福岡です」（東北福祉大学通信教育部の住所です）と言われてもイメージできない人がほとんどではないでしょうか。レポート作成では、出題者の意図を読み取り、自分だけが理解できる文章ではなく、他者（出題者）が読んでもイメージができるように、適切な抽象度で執筆することが大切です。もちろん対面のコミュニケーション場面においても同様であり、相手の理解度に合わせて抽象度を選択し、説明内容をアレンジする必要があります。説明する相手が、部下なのか、上司なのか、相手によって求められる説明レベルは異なりますので、相手に合わせた対応が必要となります。

今後レポートを執筆する際や他者とコミュニケーションを取る際、「適切な抽象度」を意識してみてください。

文献 S. I. ハヤカワ（1985）『思考と行動における言語』岩波書店。